

# 交通戦略プラン 4つの主要な施策

## 1 バス路線の再編

- バス路線を 12 路線から 14 路線に拡大します  
※勇舞地区から JR 千歳駅と新千歳空港を結ぶ「勇舞空港線」を新設します。
- 平日のバスダイヤをこれまでの 323 便から 361 便に増便します

## 2 待合環境の整備

- バスシェルターを整備します
- 乗降にやさしいバス停留所を研究します



## 3 情報発信の充実

- スマートフォンやバス待合所のモニターでバスの走行位置を即時に知らせる「バスロケーションシステム」を導入します

## 4 新たな運賃制度の導入

**チョイ乗り  
100 円運賃  
(基本運賃)**

乗車から約 1.3 km までの基本運賃が 190 円から 100 円になります

**乗継  
チケット**

JR 千歳駅と市民病院で乗り継ぎが必要な方に、乗り継いだバスの 100 円区間が無料となるチケットを交付します  
※ 100 円運賃区間を超えると 100 円引き。  
※ 乗継チケットの利用時間は 2 時間以内です。  
(同じ路線での利用不可)

**シルバー  
おでかけバス**

75 歳以上の方でパスをお持ちの方は、10 時～16 時までの運賃が 100 円になります。  
※ 支払いは、現金または福祉サービス利用券、回数券（一部のバス会社のみ）です。  
※ 始発が 10 時～16 時までのバスが対象です（時刻表やバス停留所でお知らせします）。  
※ 中央バスの千歳から札幌を結ぶ「千歳線」では利用できません。  
※ 支笏湖までは 500 円です。



**100 円バス  
(市民病院プール線)**

千歳相互観光バスの「市民病院プール線」は 1 乗車 100 円になります  
※ 支払いは、現金または福祉サービス利用券、回数券です。

記事のお問い合わせは  
**企画部主幹  
交通政策担当**  
☎ (24) 0897

自動車がないと普通の生活に困ってしまうほど、自動車に頼る社会は、交通事故が減少せず、地球環境にも優しくありません。  
また、住宅や店舗の郊外化を推し進め、人口が分散し、まちのにぎわいにもつながりません。  
自動車は、私たちの移動に欠かせない交通手段であることに変わりありませんが、過度に依存せず、時にはバスや自転車、タクシー、徒歩などを上手に使い分けていく生活習慣が求められています。

## 交通戦略プランの概要は？

交通戦略プランでは、バスシェルターの整備、バスの走行位置が確認できる「バスロケーションシステム」などさまざまなサービスを導入します。  
核となるサービスは、10月1日からのバス路線再編です。再編にあたっては、市民アンケートや利用実態調査などを実施し、バスの利便性と事業者の採算性を考慮しながら、路線拡大や平日ダイヤの増便などを図ります。

また、市民アンケートでは、運賃が高いと感じている方が多く、運賃制度のあり方についてバス事業者や北海道運輸局と検討を進めてきました。これまで以上に皆さんが利用しやすい路線バスとなるよう、再編に併せて、新たな運賃制度も導入します。



# 路線バス復活物語 ～第2章～

# 復活

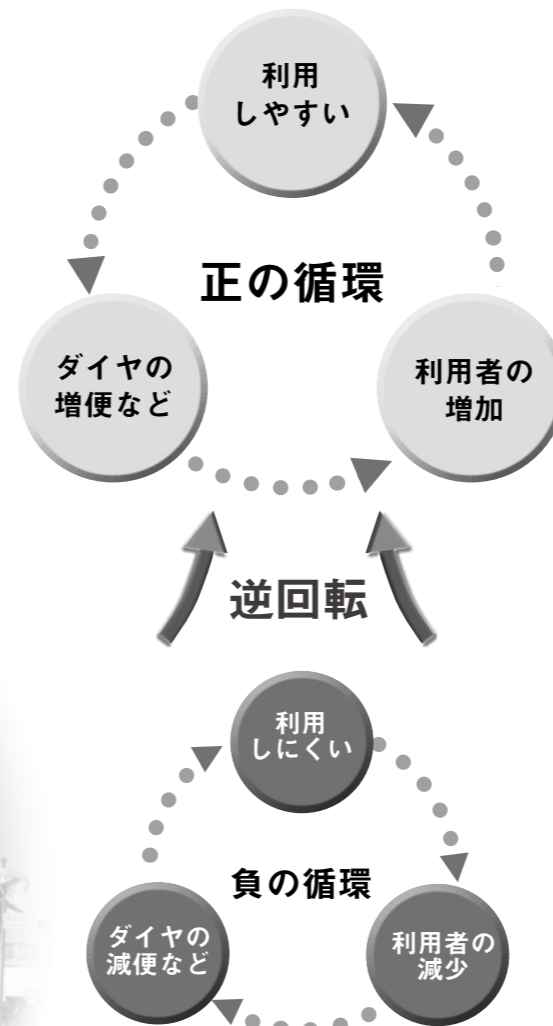
## 千歳市交通戦略プランのスタート

「10月1日から市内路線バスがチョット便利になります」

少子高齢化が進展する社会において、過度な自動車への依存を見直し、誰もが公共交通や徒歩、自転車など、さまざまな交通手段を日常的に使い分けることができる交通ネットワークを構築するため、市は、平成 28 年 3 月に「千歳市交通戦略プラン」を策定しました。  
今月の焦点は、プランの概要についてお知らせします。



これまで広報ちとせでは、路線バス復活物語と題し、平成 23 年 1 月号の第 1 章、続いて平成 26 年 5 月号の第 1 章で、市内を運行する路線バス事業における厳しい経営の現状や高齢者の移動手段となる公共交通機関の利便性を向上させるための課題などを紹介してきました。



自動車普及した現在において、日常生活の移動手段は自動車主体となり、公共交通機関であるバスの利用者は減少しています。  
利用者の減少により、ダイヤの減便や運賃の値上げなど、バスのサービスが低下してしまう「負の循環」に陥っています。  
路線バスの維持には、バスのサービスを改善し、利用者を増やしていく「正の循環」へ逆回転させる必要があります。

バスサービスを改善し、「正の循環」へ

### バスのサービス

- ▶ 路線・ルート
- ▶ 運賃
- ▶ ダイヤ
- ▶ バス停の位置
- ▶ 運転技術
- ▶ 見やすい時刻表・運賃表
- ▶ 車内アナウンス
- ▶ 車内環境